

2020年9月12日（土）～13日（日）
日本社会福祉学会 第68回秋季大会（Web開催）

中高年者の家族介護・就業 と健康の関連

○菊澤佐江子（法政大学・会員番号4391）
植村良太郎（慶應義塾大学・会員番号9724）

キーワード：高齢者福祉、家族介護、健康

研究目的

- 少子高齢化の進展にともない、日本では中高年期に高齢親族の介護と就業を同時に担う可能性が高まっている。就業については、労働人口の減少に伴い性別・年齢を問わず「活躍」が期待される傾向にある¹⁾。介護については、介護保険制度が導入され「介護の社会化」が進められたものの、制度は家族介護を前提に運営されており、未だ家族が介護の多くを担う傾向にある²⁾。
- 中高年世代はこれらの役割を実際にどのように担い、それは彼らの健康といかなる関係にあるのだろうか。先行研究では、介護と仕事を同時に担うことの健康上のメリットを示唆するものもあるが³⁾、一時点データにもとづくものであり、パネルデータによる検証が求められる状況にある。

研究目的（つづき）

- こうした背景のもと、本稿は、中高年世代における家族介護・就業と健康の関連を、パネルデータを用いて検討する。本稿ではまず、家族介護者（主介護者）の約7割を占める女性について⁴⁾、この関連を検討する。
- 健康は、経済と並んで人々の生活基盤をなす資源であり、中高年女性の介護・就業と健康の関連についての分析は、高齢者福祉の当事者である要介護高齢者とその介護家族への支援策を考案するための基礎データを提示するものと考えられる。

3

研究の視点および方法

- データは、厚生労働省が実施した「中高年者縦断調査」の個票データを、統計法第33条に基づき二次データ利用の許可を得て使用した。
- 「中高年者縦断調査」の概要⁵⁾
 - 対象：2005年10月末現在50～59歳だった男女
 - 調査年：2005年に第一回が実施され、以後毎年実施されている
 - 分析サンプル：2005年～2008年に行われた第1回～第4回調査の各時点における50～61歳の女性で、主要変数に欠損値のない者（表1）
 - 分析方法：一年間（T1からT2）を観察単位として、3観察単位（2005～2006、2006～2007、2007～2008）をプールした統合データを作成し、T1からT2にかけての同居による親介護と就業の推移と心身の健康の状況を記述的に分析するとともに、これらの変数間の関連を重回帰分析等によって分析した

4

倫理的配慮

本研究は、「中高年者縦断調査」の個票データを活用した二次分析であり、データは厚生労働省より統計法第33条に基づき二次データ利用の許可を得て使用した。データは統計的に処理されており、個人が特定されることはない。また、「日本社会福祉学会研究倫理規程」および「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」を遵守した。

研究結果

- 親の介護を開始・継続した者のディストレスは、介護をしていない者に比べて総じて高い一方、就業を継続・開始した者のディストレスは、就業していない者に比べて有意に低い傾向がみられた(表2)
- 身体的健康(ADLの有無)については精神的健康(ディストレス)に比べ、介護との関連がやや弱い傾向がみられた(表2)
- 相互作用を含めた分析の結果、介護継続者のうち就業継続・就業開始者のディストレスは非就業者より低い傾向がみられる一方、介護継続者のうち就業開始者・就業停止者には、非就業者よりADL困難有が多い傾向がみられた(表3)

考察

- 介護の推移と就業の推移では、健康への影響が異なるほか、これらの影響のあり方はアウトカムの種類(精神的健康と身体的健康)によっても異なる可能性が示唆された。
- 就業することで、介護継続が精神的健康に及ぼす負の効果が緩和される可能性が示唆される一方で、介護を継続しながらの就業開始が身体的健康を阻害するリスクや、介護と就業の両立の末、身体的健康を悪化させて、就業を断念するリスクがある可能性も示唆された。
- 今後は、身体的健康・精神的健康の双方をアウトカムとして、就業・介護との関連についてより詳細に分析を行い、今回観察された知見を精査していくことが課題である。

参考文献

- 1) 首相官邸ホームページ「ニッポン一億総活躍プラン」(平成28年6月2日閣議決定)
(<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ichiokusoukatsuyaku/pdf/plan1.pdf>)
- 2) 下夷美幸, 2015, 「ケア政策における家族の位置」『家族社会学研究』27(1): 49-60.
- 3) Kikuzawa, S. 2015. Elder care, multiple role involvement, and well-being among middle-aged men and women in Japan. *Journal of Cross-Cultural Gerontology*, 30(4), 423-438.
- 4) 内閣府, 2019, 『令和元年高齢社会白書』p.34 (https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2019/zenbun/pdf/1s2s_02_02.pdf)
- 5) 厚生労働省「中高年者縦断調査: 調査の概要」<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/29-6a.html>

表1 親介護（同居）の状況（T1→T2）別にみた分析サンプルの属性

	N	親介護（同居）の状況（T1→T2）			
		非介護	介護継続	介護開始	介護停止
健康状態					
ADL 困難あり ^a (T1)	%	10.2	13.8	12.4	12.1
ADL 困難あり ^a (T2)	%	10.8	12.7	14.4	11.7
ディストレス ^b (T1)	平均値	3.3	4.6	3.9	4.5
ディストレス ^b (T2)	平均値	3.4	4.7	4.6	4.1
就業の状況（T1→T2）					
非就業	%	27.8	36.0	27.3	31.1
就業継続	%	63.4	55.1	63.3	59.2
就業開始	%	3.6	2.9	3.3	5.1
就業停止	%	5.3	6.0	6.1	4.6
その他の属性					
有配偶（T1）	%	84.6	82.5	85.0	83.8
配偶者と死別（T1-T2）	%	0.6	0.4	0.5	0.6
年齢（T1）	平均値	55.6	55.7	55.3	55.7
世帯収入 ^c （T1）対数	平均値	3.1	2.8	3.2	3.0
世帯貯蓄 ^d （T1）対数	平均値	2.6	4.3	3.3	3.3
別居親の介護（T1 又は T2）	%	8.5	4.7	14.8	21.6
教育 ^e					
中学卒業以下	%	16.0	9.1	13.1	13.2
高校卒業	%	52.9	53.3	50.1	50.7
短大・大学卒業以上	%	31.1	37.7	36.9	36.1

^a 1=日常生活動作（歩く、階段の上り下り等）の際、困難を感じることもある、0=ない

^b K6 を使用；過去 1 ヶ月について、「神経過敏に感じましたか」等 6 項目の質問に対する回答（0=「まったくくない」～4=「いつも」）の合計値

^c 過去 1 ヶ月の本人収入と配偶者収入の合計（万円）

^d 世帯の預貯金額（万円）

^e wave2 で得られた値を、変化がないと想定して使用

出所）厚生労働省「中高年者縦断調査」の個票データに基づく筆者らの集計・分析結果

表2 親介護・就業の状況と健康の関連

	logit ADL 困難あり (T2)				OLS ディストレス (T2)			
	Model 1		Model 2		Model 1		Model 2	
ディストレス (T1)	0.06	***	0.06	***	0.69	***	0.69	***
	(0.00)		(0.00)		(0.00)		(0.00)	
ADL 困難あり (T1)	2.80	***	2.77	***	0.45	***	0.43	***
	(0.04)		(0.04)		(0.05)		(0.05)	
親介護の状況 (T1→T2) (Ref. 非介護)								
介護継続	-0.03		-0.05		0.46	***	0.45	***
	(0.11)		(0.11)		(0.09)		(0.09)	
介護開始	0.30	*	0.31	*	0.80	***	0.80	***
	(0.13)		(0.13)		(0.11)		(0.11)	
介護停止	-0.08		-0.08		-0.25	*	-0.25	**
	(0.14)		(0.14)		(0.11)		(0.11)	
就業の状況 (T1→T2) (Ref. 非就業)								
就業継続			-0.39	***			-0.16	***
			(0.05)				(0.04)	
就業開始			-0.53	***			-0.30	**
			(0.12)				(0.09)	
就業停止			0.07				0.17	*
			(0.09)				(0.08)	
切片	-5.41	***	-4.57	***	3.68	***	4.06	***
	(0.43)		(0.44)		(0.33)		(0.34)	
N	32,400		32,400		31,146		31,146	
Pseudo R ² / R ²	0.24		0.24		0.52		0.52	

*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

注. モデルは有配偶 (T1)、配偶者と死別 (T1-T2)、年齢 (T1)、世帯収入 (T1)、世帯貯蓄 (T1)、別居親の介護 (T1 又は T2)、教育変数について統制済み (表記割愛)

出所) 厚生労働省「中高年者縦断調査」の個票データに基づく筆者らの集計・分析結果

表3 親介護・就業の状況と健康の関連

	Logit		OLS	
	ADL 困難有無 (T2)		ディストレス (T2)	
ディストレス (T1)	0.06	***	0.69	***
	(0.00)		(0.00)	
ADL 困難あり (T1)	2.77	***	0.43	***
	(0.04)		(0.05)	
親介護の状況 (T1→T2) (Ref. 非介護)				
介護継続	-0.23		0.68	***
	(0.17)		(0.15)	
介護開始	0.19		1.03	***
	(0.23)		(0.20)	
介護停止	-0.48	*	-0.52	**
	(0.24)		(0.20)	
就業の状況 (T1→T2) (Ref. 非就業)				
就業継続	-0.41	***	-0.14	***
	(0.05)		(0.04)	
就業開始	-0.64	***	-0.26	**
	(0.13)		(0.09)	
就業停止	0.02		0.14	
	(0.09)		(0.08)	
親介護と就業の相互作用				
介護継続×就業継続	0.16		-0.42	*
	(0.23)		(0.19)	
介護継続×就業開始	1.33	*	-1.08	*
	(0.55)		(0.53)	
介護継続×就業停止	0.80	*	0.54	
	(0.40)		(0.38)	
介護開始×就業継続	0.16		-0.32	
	(0.28)		(0.24)	
介護開始×就業開始	0.16		-0.33	
	(0.76)		(0.60)	
介護開始×就業停止	0.24		-0.28	
	(0.51)		(0.47)	
介護停止×就業継続	0.56		0.40	
	(0.31)		(0.24)	
介護停止×就業開始	1.49	*	0.20	
	(0.60)		(0.51)	
介護停止×就業停止	0.42		0.53	
	(0.63)		(0.55)	
切片	-4.54	***	4.04	***
	(0.44)		(0.34)	
N	32,400		31,146	
Pseudo R ² / R ²	0.25		0.52	

*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05

注. モデルは有配偶 (T1)、配偶者と死別 (T1-T2)、年齢 (T1)、世帯収入 (T1)、世帯貯蓄 (T1)、別居親の介護 (T1 又は T2)、教育変数について統制済み (表記割愛)

出所) 厚生労働省「中高年者縦断調査」の個票データに基づく筆者らの集計・分析結果

謝辞

本研究は、科学研究費補助金(課題番号17K04258)の助成を受けて行われている。